

○議長（高橋正博君）

8番 福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

8番日本共産党の福本耕太です。さっそく質問に入りたいと思います。

1つ目は、今年12月に行われる次期町長選挙に三枝邦彦町長が立候補を表明している点について、三枝町長が自己破産を申請しているということを踏まえ、お金にまつわる問題で2点質問をしたいと思います。

1つ目はお金に対する認識です。町長選挙に立候補しようとするれば供託金50万円をはじめ、選挙にかかる政治資金が必要です。そのような資金が用意できるのであれば、まず自己破産で返済から逃れようとするのではなく、債権者に対して誠実にお金を返していくというのが、公人、町長を目指す人の社会的責任ではないかと私は考えますけれども、町長の認識を聞きたいと思います。

○議長（高橋正博君）

すみません。福本耕太君、上着を着てください。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

福本耕太議員の質問にお答えしますが、これについては個人的な話なので、ここで答弁を差し控えたいと思いますけれども、先ほど鈴木議員にも言いました。質問の中、1番は言っていないので言いませんけれども、基本的には、議員の皆さんにも何回かお話をしたと思います。保証と個人の借入れ債務って全然別物です、たぶん福本耕太議員も知ってると思うんですけど、そういう中で、保証人ですから、何人かいる中の一人です。ただ個人でお金借りるってことは一人です。そのあたりもあってですね、当然先ほど言われた債権者っていう話も出ておりましたけれども、債権者はたぶん金融機関になると思います。

○議長（高橋正博君）

8番 福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

ちょっと質問と答弁がかみ合っていないんですけど、私が言うたのは分かりやすく言いますと選挙に出ようと思ったら、供託金50万円をはじめとしてお金がかかるんですね。そういうお金を持ってるんだったら、まずそのお金は返済に充てると。自己破産して返済から逃れるんじゃないで、まず返済をするというのが公人を目指そうとする人の社会的責任じゃないですか、という認識持ってますかということをお聞きしたんですけども。お答えしたらお金返さんでも別にいいと。立候補することに対しては、町長に立候補することとは関

係ないということをおっしゃったんですかね。違う。じゃあちよつと。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

そういう意味じゃなくて、今現在調定中ではなくて審査中という状況なのでそのあたりがちよつと違うのかなと思います。

お金用意できるうんぬんということについては個人的なことなので答弁は控えさせていただきたいと思います。

○議長（高橋正博君）

8番 福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

調停中ということは自己破産、申請されてるんでしょ。要は債権者に対してお金は返せませんよということをおっしゃってるわけですよ。そういう状況で、でも選挙に出ようと思ったら供託金最低50万円はいるわけですよ。お金がなかったら選挙できないんですけれども、私が言うてるのはそういうお金があるんだったら、そういう申請そのものを止めて、まず返したらいいんじゃないですかということ、これが公人としての当たり前の考え方だと私は思うんですけど、そうは思いませんかっていうことを聞いてるんです。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

先ほど言いましたように、これは個人的なことなので答弁は控えさせていただきたいと思います。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

思わないということだと思います。

そしたら時間もありますので、次にですね、先ほど言いましたように、町長選挙に出ようと思いますと、供託金50万円はじめお金が必要になってきます。今、自己破産を申請してお金がないということを宣言されている三枝町長ですけども、この選挙費用っていうのはどこから調達されるのかなと。どこからこのお金が出てくるのかなということが一つ、私にとっては不思議なことになるんですけども、このお金どこから出てくるんでしょうか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

あの、先ほど言いましたようにこれはすべて個人的なことなので答弁は控えさせていただきます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

町長選挙に立候補するっていうことは、町長になるっていうことは個人的なことじゃないんですよ。三枝町長。町長になるっていうのは個人的なことじゃないんですよ。選挙に出るっていうことは個人的なことじゃないんですよ。どこからお金が出てきてるかっていうのはきちんと説明できないと駄目なんですよ。だから私が自己破産してお金がないって言うてる人が、返すお金がないって言うてる人が、選挙には、のお金がありますっておっしゃるわけですから、いったいそのお金はどこから出てくるのかと、誰かに借りるんですか、それとも、自己破産の申請はしてるけれども、別にお金は持ってるんですか。そういう話をしてるんです。不思議で仕方がないんですよ。返すお金はない。でも選挙に出るお金はある。これ誰が聞いても意味が分からないんです。選挙で町長を目指そうというのであれば、そのお金、選挙に出るお金、せめて供託金とかのお金どこからどういうふうに工面しようとしてるのかということとは明らかにしないとこれは、駄目やと思いますよ。これ個人の問題じゃないと思いますよ。

ちょっと止めて。

休憩

○議長（高橋正博君）

暫時休憩。

休憩 午後 1 時 42 分

再開 午後 1 時 45 分

出席議員及び欠席議員

休憩前に同じ。

地方自治法第 121 条による出席者

休憩前に同じ。

議会事務局職員

休憩前に同じ。

再開

○議長（高橋正博君）

再開いたします。

町長答弁をお願いします。三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

先ほど、何回も言ってますように、これは非常にデリケートな話だと思えます。そちらから見ると。これは基本的には公人ですけども、公人の前に私人です。ということで基本的にはですね、こういう個人の部分は差し控えたいと思えます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

私は、三枝邦彦さんがどこかのスーパーで魚を買うとか肉を買うとかいう話をしてるんじゃないですよ。これから公人になるために、選挙に出るお金がどこから出てくるのかっていう話なんですよ。だから、これ、個人の問題じゃないんです。立候補されるんはあなた個人かもしれないですけど、町長になる人、例えばですよ、例えば、町長になる人が土庄町の公共事業を受注してる会社からお金を借りたとします。それで選挙に出たとします。そんなことができますか。違法になりますよね。私が言うてるのは、自己破産して返すお金がありませんと一方言うときながら、一方では選挙に出るから、出ますと言われてるから、そのお金を工面しないとイケない、現実的に。これ別に誰が選挙に出たかて、この供託金50万円とか選挙費用ポスター作ったお金は必要なんですよ、これ。こういうお金がどこから出てくるのかっていうのが不思議で仕方がないんですよ。私的な話じゃないですよ、これは。町長選挙に出るためのお金だから。だからきちんとそれを説明しないとイケない。現町長が、次、町長目指す上では、最低限住民に説明しないとイケない内容だから聞いてるんです。誰かから借りるんだったら、誰かから借りるって言うたらいいと思うんですよ。でもね、自己破産申請してる方に対して、銀行とか郵便局とか、それから公的なそういう金融機関はお金は貸さないんです、基本。となると、親戚とか、もしくは知人、友人といったことになるわけなんです。そこをきちんと説明できなければ、はなから、最初から疑惑が出てくるじゃないですか。だからそこを明らかにしておけば、町長も胸張って立候補できるんじゃないですかという意味も含めて質問してます。どこからこのお金は出てくるんでしょうか。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

ここは一般質問の場です、そういう個人的な、どこからどうかここでそういう答弁は、言うべき問題ではないと思うので答弁は控えさせていただきますと思います。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。答弁が同じ繰り返しになっているので、また角度変えて。町長も、また紳士的な答弁をお願いします。

○8番（福本耕太君）

すみません。角度変えようがないんです。すみません、これね、たぶんここにいる皆さん誰が聞いても、ちょっと、すっぽんぽんでお金何にもない人がね、選挙のときにはお金50万あるんですいうて持ってくる。じゃ、どこから持ってきたんやっていう話やから、角度の変えようがないんですよ。議長。

これね、三枝町長ね、選挙に出るお金っていうのは政治資金なんで、きちんとやっぱり、住民に説明しないと駄目なんです。だから自己破産と立候補との関係でどういう認識を持ってんのか、お金がどこから出てくるのかっていうことを問うてますので、これきちんと説明しないと立候補できませんよ。社会的当たり前のこととして。そのことを訴えたいと思います。

時間もありますので、次の質問に入りたいと思います。

次の質問はですね、豊島唐櫃漁港の浮棧橋設置の事業についてですね、質問をしたいと思います。

町は、直島に設置された浮棧橋が不要になったことを受けて、県からこれしてもらい受け、半分に切断した後、一方を家浦に、そしてもう一方を唐櫃の漁港内に設置しようとしています。この案についてまず3点お聞きしたいと思います。

唐櫃漁港への棧橋設置は地元漁協の要望ではないですね。まずそれが1つ目。

2つ目は町が漁協にお願いして許可を得たものですか。

3つ目、その際漁業者、漁師さんたちに対して、「これ、ただで付けるから」という話をしたのかどうか、事実をお答え願いたいと思います。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

福本議員のご質問にお答えいたします。

豊島地区において、ビジターボートを係船許可しているのは、唐櫃漁港のみのため、3年に1度の瀬戸内芸術祭の開催時には、多くの町外ビジターボートか

らの係船依頼がございます。係船申請後に係船許可し、現在、フェリー発着場の近くの防波堤にて係留していただいておりますが、この防波堤の係船場所は、乗り降りするはしごや船を係船するための係船環などもほとんどない施設でございます。干潮時には、防波堤と海面との高低差が大きくなるため、乗り降りに対して大変危険な状態となっております。町が係船指定場所としているため、何か事故が起こると今後、係船していただくことができなくなる可能性もあります。

このような状況を改善するために、漁港管理者である町として、浮棧橋を設置しようとしているもので、地元漁協からの要望ではございません。

また、設置に対して、「ただでできる」という話はしておりません。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

ただで取り付けるという話はしてないという話でした。私、何人かの漁師さんからお話聞きました。その際に、ただで付けるということを知った。「漁協のほうはお金出さんでええから、ただやから取り付けるのを許可してほしい。」という、お願いに来たというのを数人の方から聞いております。この事実関係、ただで付けるという話をしたかどうかというのはすごく大きな問題やと思います。今してないと課長からおっしゃった。これから、追及していきたいと思っております。

次に、コロナ禍で住民の暮らし、教育の保障、医療機関や福祉施設を支える予算、これこそが今、最優先されなければならないときに、それさえままならない土庄町が今、なぜ町単独 1530 万も投じて、島外から来るレジャーボート専用の、いわば観光向けの棧橋を設置しなければならないのか。私には全く理解できないんですけども、予算の使い方が間違っているのではないかと思います。

そこで問います。この棧橋は来年 2022 年 4 月 14 日から開幕予定の瀬戸内芸術祭に向けて、アフターコロナを見越して設置すると町は言っています。来年の春、アフターコロナ、つまりコロナが収束しているという見通しを科学的根拠に基づいて示してください。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

福本議員の再質問にお答えいたします。唐櫃漁港のビジターボートの係船につきましても、先ほど説明したとおり、使用に対して大変危険なものになっております。町としましては、この場所をこのまま係留すべきか検討している折

にですね、県から浮棧橋の譲渡の話があり、ビジターボートの利便性、安全性の向上や新規事業として計画するより事業費が安くなるということから、地元漁協の了承の上、設置しようとしているものでアフターコロナのためという話ではございません。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

委員会の説明の中でですね、アフターコロナの芸術祭のときに外から人がくる、係船する。そのために付けるっていうお話、委員会の中で何回もされたじゃないですか。違うの。アフターコロナのためと違うの。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

委員会の中で、芸術祭の話をしたのは芸術祭になると、係船依頼がかなりくると、ようけくるという話でさせていただいたので、芸術祭のために付けるという話ではございません。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

芸術祭になったらたくさん人が来るんですよ。係船依頼が。芸術祭、4月からやるんだけど、そのときすでに、アフターコロナになってるっていう保障はないわけですよ。でも今はコロナ禍の中で、土庄町民が苦しんでる状況で、十分な手当でもできてない状況の中に、私が言うてるのは何でここにあって1530万円ものお金をね、どうなってるか分からへんの、4月22日の段階で。先々予算をつける必要があるんかっていうことを言うてるんですよ。だから芸術祭のときにいろんな、よそから船が来るわけでしょ。応募があるわけでしょ。そういうところに今、お金をつける時期じゃないでしょということを踏まえて、じゃあ仮に、瀬戸内芸術祭のときにたくさん船が来ます、となった場合、これアフターコロナじゃなかったら来てもらったら困るわけじゃないですか。チェックもできひんし。そういうことを聞いてるわけです。アフターコロナになってる保障はあるんですか。アフターコロナじゃなかったら、いっぱい来はったら島民、感染する可能性もあるわけやからね。そういうことを聞いてるんですよ。芸術祭のときにたくさん人が、船の依頼がくる。そこで、言うたら、感染をしないようにすることができる、コロナが終わってるっていう見通しを持ってそういうのやろうとしてると思うんだけど、コロナがバンバン流行ってもそれやるんですか。そんなわけじゃないですよ。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

ご質問なんですが、こちらの棧橋につきましては、施設が大変危険であるために町としてその棧橋を設置したいということでございまして、当然芸術祭のときには多くの依頼がきますけど、それ以前に施設として浮棧橋をつけることによって安全性を確保できるという意味で設置したいということですので、コロナうぬぬの話ではございません。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

だから係船をつけるんでしょ。豊島に船が来るわけでしょ。それを「さあ、どうぞどうぞ、安全に来てください」というために付けるわけでしょ。安全に来てくださいということと呼び込むために付けるわけでしょ。ということは、コロナが落ち着いてなかったら、どんどん、どんどんそうやって安全な場所ができて、船が付けられたら、豊島の人に感染する可能性が増えるじゃないかということ言うてんですよ。今、それをしないかときですかと。どんどん来てください、来てくださいていうことをやるために、いうたら GoTo キャンペーンやるために、浮棧橋を今この時期につけなあかんのですかっていうことを聞いてるんです。だから、私が言うてるのはコロナが収束してなかったら、来てもらったら困るわけですよ。バンバンバンバン、チェックもできひんところで。そやのに、それを付けるいうことはやね、4月の芸術祭のときにはコロナが収束してるという見通しを持ってるんですよということ聞いてるんですよ。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

今回のこの浮棧橋を設置するにあたりまして、先ほどもちょっと述べさせていただいたんですが、県からの棧橋の譲渡というお話がありまして、その設置するにあたってですね、本来新設の新しく付けようとする金額よりは、安価にできるということがございまして今回設置するというかたちに判断いたしました。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

安価にできるんだったら別に置いとったっていいじゃないですか。このコロナが落ち着いて、みんなが安心して来れるような状況になったときに、その安

価な予算をつけて浮棧橋を付けたらいいじゃないですか。なんで、こんなにコロナで住民が苦しんでいるときに、住民の手当てさえできてないときに、わざわざそれを、今やらなあかんのかということ言うてるんですよ。ちょっと、そこばかり繰り返してもあかんので、次の質問に入ります。

豊島では過去に消防団から観光客に感染者が出た場合、手に負えないから救助したくてもできないと悲鳴が上がっています。それほど、観光客の入島には気を使わなければならない地域です。そこで問いたいと思うんですけども、この棧橋を利用して豊島に島外からいろんな観光客が来た場合、いつどこから来て、どのように上陸してくるかっていうのは把握できないですよ。そういう観光客に対してのコロナのチェックっていうのはどういうふうにしていくんか、具体的に実例をあげて説明してほしいと思うんですけど、その前に今、小豆島でもよそから船で来る人いっぱいいるんですけど、レジャーボートでね。そういう人たちへのチェックってできてないと思うんですよ。できてないですよ、実際。夏場でも海水浴に来てる人たち、それができてないのにどうして豊島でこういうことやったときにできるんかっていう話になってくると思うんですけど、どうやってやるんかと、チェックをどうやってやるんかというのをお聞かせ願いたい。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

再質問にお答えいたします。コロナのどういう状況になっているかの判断につきましては、今現在もできませんし、浮棧橋が付いた状態でもできることはないと思います。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

つまりできることがないんですよ。できることがないんですよ。仮にコロナが収束してない状況で、棧橋つけてどんどんよそから人が入ってきたときにチェックする機能が果たせないという状況にあるんだから、今、そういうときにどんどんきてくださいというGoToキャンペーンっていうのは、やめるべきやということを申し上げたいと思います。

次に、具体的に漁師さんたちからの声をあげて質問したいと思います。

1つは漁船に給油するために設置されている給油施設に給油船が、給油のために来たときにですね、棧橋が給油船の運行の障害になるのではないかと。設置した棧橋がね。という心配が一つあがっています。それについてどう考えているかを答弁を求めたいと思います。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

再質問にお答えいたします。給油船につきましては、今現在、付けようとする部分につきましては、漁業組合で、この位置なら大丈夫という話でお聞きしておりますのでその予定としております。もし、そういう形で給油船に支障があるのであればですね、多少の位置変更というのは可能かと思われま

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

位置変更というても、アンカー沈めて大工事ですよ。1530万つけて。つけました、邪魔になったから位置変更しましたと簡単にできる話ではないと思うんですよね。そういうのをきちんとやっぱり精査した上で、きちんと議論した上でやるんだしたらまだ話になると思うんですけど、全然議論が進んでない。というところは一つ大きな問題やと思います。

もう1点、無医島をめぐる海上診療船が唐櫃を訪れた際に、船が沈めるアンカーが予定の計画になる浮棧橋にあるアンカー、コンクリート沈めて鎖でつないでおるぶんですね、そこに引っかかるんじゃないかという心配の声もあがっております。これについてはどうでしょうか。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

再質問にお答えいたします。済生丸につきましては、長さ33メートル、幅7メートルでございます。既設浮棧橋から新しく付けようとする浮棧橋のアンカーコンクリートの部分につきましても、推定60メートルありますので、それにつきましては、支障ないものかと思われま

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

支障ないという答弁がありました。しっかり残しておきたいと思

います。じゃあ次の質問いきます。もう1点はですね、レジャーボートが漁港の湾の中に多数入ってきて行き来をするようになればですね、漁船との間で事故が起きたりとか、トラブルに発展する可能性があるんじゃないか、そういう心配ありますけども、その点どういうふうに対処しようというふう

に考えておられますか。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

再質問にお答えいたします。プレジャーボートにつきましては、今現在も唐櫃漁港内にもプレジャーボートたくさんおられます。その中での運行ということですので、通常のプレジャーボートの運行に対しては支障ないものかと感じます。あと、係船の船数につきましても、2隻ぐらいしか占有ができないと考えておりますので、その点は対応できるかと考えております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

ではちょっと質問の角度変えます。棧橋設置の工事費1530万円についてお尋ねをいたします。この金額というのはどの業者に見積もりを依頼したものですか。それと、工事請負業者の選定は今どのように考えているでしょうか。お二つについて答弁を求めます。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

設計の見積もりにつきましては、専門の関係のほうから設置に関しての見積もりを依頼してですね、概算金額をはじいております。あと、設置費用につきましては、こちらの町のほうにあります、歩がかりというのがあるんですが、そちらのほうで設計をしましてですね、諸経費などからかけました概算の設計書を作っております。詳細につきましては今後、詳細設計を作成する予定となっております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

業者に委託して見積もりを出したわけではないんですか。町で独自に出したということですね。分かりました。

選定の業者はどのようなふうなかたちで選ばれるか。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

工事の選定につきましても、今後設計書ができ次第ですね、町のほうの指名審査委員会にかけまして、そこで選定されて発注するような形となります。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

指名で業者を選ぶということですか。ほんなら、価格がもっと下がっていくという可能性っていうのはなかなか厳しいということになるんですか。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

設計金額につきましては、設計する段階です、ある程度の金額を精査していこうかなと考えておりますので、その金額に対して今後、金額が下がってくる可能性もございます。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

じゃ、まとめに入りたいと思います。

日本共産党は唐櫃漁港に、今の時点で棧橋を設置することは賛成できません。今議会での予算化は中止するべきだと考えます。その理由を述べます。

土庄町民のほとんどがこの棧橋の設置の話を全然知らない議案であるということが一つ。そしてもう一つは地元漁師や住民の要望でもないということです。町が棧橋設置について、漁業者の荷物の積み下ろしにも利便性があるということ先ほど、今日午前中に話をされましたけども、委員長の報告の中でそういうふうに町のほうが説明した文書が入ってありました。本当に漁業者にとって利便性があるんだったら、漁業者のほうから要望が出てきてないとおかしいんですけども、別に漁業者のほうから、この要望が全然あがってないということで、こういう問題については住民が置き去りにされている、話として。これが出てきてすぐ可決みたいな話になるのはおかしいと。しっかりと議論をするべきだということを述べたいと思います。

そして科学的に、いつになるか分からないアフターコロナのための GoTo キャンペーンは、もうやめるべきだということを訴えたいと思います。

もう一つは棧橋の設置場所が地元住民の生活の障害になるかどうかというところでの議論というのも、今、障害にはならないということをおっしゃったんですけども、住民の中ではまだ理解がされてないんですよ。課長はそう思われてるかもしれんけど、豊島の漁師の中からは不安の声がまだまだある。そこをきちっと整理していく、そこをきちっと話をしていくことが必要だということを訴えたいと思います。

それと一番大きなポイントここなんですけど、いつどこからどのように豊島にやってくるか分からないレジャーボートの観光客に対して、コロナの感染対策、これが十分にできないという状況があるにも関わらず、どんどん人に来て

くださいという状況をつくるというのは、根本的に考え方として間違っていると言わざるを得ないということで、また、この1530万という巨額の予算を今の時期にこうした事業に投じるということについては到底理解ができるものではないということで中止を求めるものであります。

最後の質問にまいりたいと思います。町のコロナ対応の在り方を根本的に転換するよう求めたいと思います。

具体的には、1つ目はですね、先ほど濱野議員が、だいたい8割ぐらい質問の中で、言いたいこと言うていただいたんですけども、屋外の施設も含めて、今、町は全部禁止しているんですね。でも、その一方で小学校、中学校の授業は、ここより狭いぐらいの教室で30人ぐらいの子が授業やってる。外では体育もやっている。そういう状況があります。確かに9月12日までの禁止という条件については、それまでは2桁を超えるコロナ感染者もいましたから、みんな我慢できたと思うんですね。でもそこから先の部分については、学校も始まり感染者も見当たらない、そういう状況の中で、それが9月30日まで、月末まで伸びているってことに対しては、もう理解が全然得られるものじゃないということをお願いしたいと思います。

これね、先ほど教育長がしきりに大人の皆さんに注意してほしい、注意してほしいということ言われてたんですけど、指導者の人とか保護者の人とか。これはスポ少にしたって何にしたって大人がいますから、町がグラウンド貸したりとかしてても、これ危ないなって話になったらやめましょうって、その大人が決めることです。自主的な活動に町が場所を貸さないとなくなってしまう自主的な活動そのもの、考えそのものがないということになってしまいますので、一日も早く、グラウンドを、それから体育館等についての開放をしていただきたいと思いますけども、町の考えをお聞きしたいと思います。先ほどもあれされてるんで同じことにならないようにお願いします。

○議長（高橋正博君）

生涯学習課長 三木新治君。

○生涯学習課長（三木新治君）

福本議員のご質問にお答えいたします。先ほど、濱野議員の答弁と重複する部分がございますが、土庄町では、町内施設におけます利用制限につきましては、国からの基本的対処方針、新型コロナウイルス感染症対策に対する香川県対処方針、町の新型コロナウイルス感染症対策に係る基本方針に従い、また、それに加えて、島内、町内の感染状況を踏まえて対策を講じております。

町民の皆さまには、人流を抑制し、感染リスクの低減を図るため、日中も含めた不要不急の外出・移動の自粛、他の都道府県との不要不急の移動・往来の自粛など要請することとしており、住民の安心と安全を最優先に考慮して対策

を講じております。

県、国の方針に合わせて対応しております。その中でご質問にありました、屋外施設は使用禁止にしない、公園や多目的広場を家族や個人が使用することは禁止していないことを明確にすることについては、全体で制限をしている中、個々の行動を認めることは難しいと思われませんが、住民生活にも配慮した上で、今、検討していきたいと、検討中であります。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

一つは個々で公園で遊ぶことについて、本来禁止してないんですよね。公園で子ども連れの親がマルヨシの前の公園で遊ぶことについては禁止してないですよ、もともと。今、禁止してるかのような答弁帰ってきましたけど、禁止してないですよ。

○議長（高橋正博君）

生涯学習課長 三木新治君。

○生涯学習課長（三木新治君）

福本議員の再質問に答弁いたします。生涯学習課の管轄は高見山の運動公園のほうは禁止しております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8番（福本耕太君）

普通の多目的広場、公園で個人が使うことも禁止してるんですか。例えば、僕が子どもを連れて公園に遊びにいったら、ボール遊びしてる、それから公園でジャングルジムに遊ばせるってことも禁止してるんですか。これしてないって言うふうにお聞きしてるんですけど。できんやろ、そんなこと。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

教育総務課の所管部分のオリーブタウンのさくら公園について答弁しますけども、あそこについては自粛と。自粛をお願いするという看板を設置させていただいております。見てのとおり広いですので、例えば誰もいない、そこで家族が2人、3人、家族で行って遊ぶのも禁止するのかと、そこまでは禁止していないので、自粛の意味を理解していただいた方はそこで利用できることも可能というふうなことにしております。

○議長（高橋正博君）

福本耕太君。

○8 番（福本耕太君）

それが伝わってないんですよ。そのことが。全部駄目。全部駄目やっていうふうみんな思ってるんです。あそこに立ってる看板ね、さっきもちょっと写真撮ったんですけど、9月30日まで使用を中止させていただきます、禁止しますって書いてあるんですよ。あれ見よったら、子ども連れた親は入れん。入れない、すみません讃岐弁で。入れません、あれは。それで入って遊んでるのを他の人から見られたら「あの人が違反してはるわ」って思われるから、だから禁止してないのであれば、ああいう看板じゃなくて注意して使ってくださいとか、それぞれの皆さんの判断で気をつけてくださいとかっていう看板だったら分かるんですけど、あれ見る限りみんな、あれが使っちゃ駄目ですよというふう書いてあるように見えます。そこをちょっと訂正してほしいと思います。

それと時間がないから、もう単刀直入に教育長にお願いしたいんは、基本的にグラウンドとかでサッカーしたり野球したりすることで、感染する科学的根拠をきちんと示すことができなければ、科学的根拠に基づいた基準を作って住民に周知しなければ、これを禁止するっていうのは、もう無理があると思います。だから濱野さんもおっしゃいましたけど、早急に検討して、私としては今日明日で、屋外施設については開放するようにはしていただきたい、大人、使っている住民を信じていただきたいというふうなことをお伝えしたいと思います。

最後、時間がありませんので、これは町長にですけども、今こうしたですね、厳しい状況で住民が我慢している中でですね、一方で観光客とかですね、帰省の住民の方については何のチェックもないと言っていいほどスルーで小豆島の中に、いろんな人が入ってきています。東京やら大阪やら、はたまた北海道やらっていうナンバーがいっぱい走ってますけども、こういう人たちに対して、一つはですね、きちんとマナーを守ってもらいたいんですよ。土庄町が観光の土地だというんだったら、やはりマナーを守らないお客さんに対しては駄目ですよと毅然とした態度を取れる町でこそ、観光の町としてきちんとブランドを確立できる町だと思います。だから、一つはそういう観光に来る人たちに対してはマナーを守ってくださいということをきちんとお伝えしていただきたい。それはフェリー会社とか観光協会の皆さんと協力をしながら具体的なかたちでやっていただきたいと思います。

具体的に言います。一つはやっぱり特に目につくのは、商業施設の中で若い学生の人たちが、マスクを付けずに、全員がマスクを付けずに歩いています。露骨に。ちょっと終わりましたが、鹿島の海水浴場で30人から40人の、これ船でやってきた観光客の人ですけど、集まって飲食やってました。こういうことをね、島外の人たちに認めながら、島内の人たちに対しては規制をかけていくっていうのは、これはもう通らない。やっぱり我慢の限界になってしまい

ます。こういうところにこそきちんとやっぱりチェックをしていただきたいと
思います。それと帰省の方、大学とかに行ったりとかして島外に出ている方
についてはですね、帰ってきやすいように県に対して、PCR 検査の補助を、公的
補助をきちんとするように、土庄の住民に対しては町もそれから県もお金を出
して、帰ってくる時には PCR 検査やって大丈夫だっていうのをきちんと島民
やら家族やらみんなが安心して受け入れられる状態を作った上で、迎えていけ
るような状態をつくっていただきたいと。これは町長だけじゃなくて、当局皆
さんをお願いしたいと思うんですけども。そういうことをやってこそね、や
はり土庄町っていうのは、小豆島っていうのはこれでこそ観光の島やと毅然と
しているということを皆さんにアピールできるんじゃないかということを書いて、私の質問を終わりたいと思います。